

会 議 録				
平成26年度第7回 社会教育委員の会議	日 時	平成27年1月23日(金) 午前9時30分～11時00分	場 所	小金井市第二庁舎 8階801会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出席者	委員	中村議長、原嶋副議長 樋口、石田、樹、倉持、小山田、清水 各委員		
	その他 事務局	西田生涯学習部長 石原生涯学習課長、上石図書館長、前島公民館長 牛込生涯学習係長		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可		傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
<p>1 協議事項</p> <p>(1) 第2次小金井市生涯学習推進計画の評価に係る調査について</p> <p>(2) その他</p> <p>ア 会議録について</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 平成26年度成人式について</p> <p>(2) 第27回多摩郷土誌フェアの開催について</p> <p>(3) 図書館サービスの見直しについて(答申)</p> <p>(4) 公民館業務の見直しについて(答申)</p> <p>(5) その他</p> <p>ア 第4回定例会について</p>				
<p>(中村議長)</p> <p>年が明けて、今回が最初の委員会ということで、旧年中は、科学の祭典であるとか、第5ブロックの研修会とか、皆さん、いろいろご活躍、ご協力いただき、ほんとにありがとうございます。この場をかりて、厚く御礼申し上げます。</p> <p>今年は、第2次生涯学習推進計画の評価と第3次生涯学習推進計画の策定という大きな山がまだ一つ残っているので、また引き続き、去年同様、恐れ入るが、よろしく願います。</p> <p>今日は、本多委員が体調不良でご欠席、倉持委員は、ちょっとおくれられる。宗像委員は欠席であろうと推測される。</p> <p>それでは、事務局から、石原課長、配付資料の説明をお願いできるか。</p> <p>(石原生涯学習課長)</p> <p>まず、会議の次第である。それから、小委員会のメンバーさんにまとめてもらった第2次生涯学習推進計画第4章の各団体からの意見を節ごとに振り分けしてもらったものが、ちょっと厚めの資料になる。それから、図書館サービスの見直しについて(諮問)、公民館業務の見直しについて(答申)というものがある。こちらは後ほど報告事項として使わせてもらう。</p>				

(中村議長)

そのほかに、おそらく体協さんから、『体協だより』というものも一緒に配られているかなど。それから、配付物として、冊子類など、まとめてになってしまって申しわけないが、各種情報とか、委員さんの便りとか、そういったものを取りまとめて、この中に入れさせてもらったので、お時間があるときにお目通しいただければ結構である。

以上である。

(石原生涯学習課長)

1つだけ申し上げておきたいと思う。『小金井市の歴史散歩』という冊子が入っていたかと思うが、12月にでき上がって、今、既に順次、頒布を始めているところである。中身は、小金井市の文化財等について、非常にコンパクトに、地域的なまとめ方をもってやっている。ここのところ、生涯学習課の文化財係を中心に、文化財に関することがかなりいろいろと話題になっているところでもあるので、ぜひ、お時間があるときにお目通しいただければ幸いかと思う。議会なんかでもよく出てくるようなことが出ているので、よろしく願います。

以上である。

1 協議事項

(1) 第2次小金井市生涯学習推進計画の評価に係る調査について

(中村議長)

それでは、まず、会議次第に基づいて、早速、本題から入らせていただきたいと思います。

協議事項(1)第2次小金井市生涯学習推進計画の評価に係る調査についてということで、まずご説明させていただくと、前回、小委員会で、特に(1)第2次小金井市生涯学習推進計画の評価について討議して、小委員会のメンバーの中で分担を決めて、各社会教育関連団体から、去年の9月末締め切りということでアンケートが集まってきたということで、それを各小委員会のメンバーの委員で分担してまとめたものが、今、お手元の資料ということである。

皆さん、これをお持ちか。第2次小金井市生涯学習推進計画の第4章の施策の展開ということで第1節から4節まであって、第1節は子どもの健全育成と家庭教育への支援、これの担当が小山田委員、それから、第2節が自主的な学習活動への支援と交流の促進、これは原嶋副議長、それから、第3節が多彩な学習活動と市民文化の創造ということで本多委員、それから、第4節が連携・協働による施策の推進ということで私中村がそれぞれ分担して、各社会教育関連団体からのアンケートをまとめたものが、お手元のこの会議資料。第4章以外の項目については倉持委員が担当されているということで、お手元のこの資料については、あくまでも社会教育関連団体からの意見で、我々社会教育委員としての意見がまだ反映されていないということで、まずは、皆さん、これに目を通していただいて、次回の定例会議が2月13日の金曜日になるが、お忙しいところ、宿題という形で恐縮だが、それまでに皆さんから事務局に、ご自身として、このまとまったことについて総括的な評価、個別の項目はこの中に評価としてうたわれているので、社会教育委員として、ご自身の立場としてのお考えをまとめていただいて、事務局に送るということ

でお願いしたいが、よろしいか。それがないと、我々、ここに座っている意味もないので、石原課長、その締め切りをどうするか。

(石原生涯学習課長)

2月13日の1週間前の木曜日でいいと思う。

(中村議長)

2月6日の金曜日になる。

(石原生涯学習課長)

金曜だと、週末に入ってしまったって、事務手続が滞ってしまうので、5日の木曜日までにメールでお寄せいただければと。

(中村議長)

はい。あまり日がなくて恐縮だが、2月5日の木曜日までに、事務局に、ご自身での……。

(石原生涯学習課長)

5日の夕方とか夜とかでも構わないので。

(中村議長)

お忙しいところ、日がなくて申しわけない。2月5日の木曜日までに、これをごらんいただいた上でのご自身としての総括的な評価、第2次小金井市生涯学習推進計画についての評価をしていただくということになる。特に分量等はお任せするので、これをよくお読みいただいて、なおかつ、各団体からのアンケートのまとまったものをよくごらんいただいて、ご自身としての評価をお願いしたい。それらを合体させて、最終校ということで、めどとしては、3月末までに全部をまとめていこうかなと考えている。その方向性でよろしいか。

ご異議なければ、そういうスケジュール、まず、評価については決めていこうかと思うが、いかがか。ご意見はないか。

(原嶋副議長)

これは概括的に読んで、評価の視点というのをある程度、皆さん、フリーハンドで書かれてきて、またそれをまとめるというのは大変なのかなと感じることはある。危惧ばかりしてはいけないから、1回やってみるといっても大事なのかもしれない。ただ、そんな感想を持った。

(中村議長)

補足すると、この個別の項目については、各団体からここで十分出て、各論的なところは言い尽くされていると思うので、総括的な話というか、総括的な評価ということで考えていただければと思う。もちろん、個別のお話であっても、それはそれでよろしいかと思う。これについて、ご意見とかご質問とかがあれば承りたいと思う。

(石原生涯学習課長)

今、副議長から、評価がそろっていないというお話があった。あと、せっかく皆さんに評価していただいても、こういう評価だと、第3次をつくっていく上でのストレートの反映が難しい評価になっているとかということがあって、再度、もっと精緻なものをみたいな話になっていくと、

ちょっと時間的に、評価の作業を年度をまたいでやるような形になってしまうと、本編の3次をつくっていく時間的な余裕がなくなってしまう。

私のたたき台として聞いてもらえれば結構だが、皆さん方、同じような評価の文面を出してもらっても、それは1つの視点でしかつくることができなくなってしまうので、広い範囲で、それぞれの角度が違ったものが10人分集まってくるのが理想ではあるかなと思う。

それと、逆の見方としては、各団体さんなどがそれぞれ、こういうふうに変えるべきとか、ここを充実させるべきというような書き込みがあるが、それを単に、この団体さんの言うようなことは、団体の意見としてはわかるけど、社会教育委員全体としてはそうではないとか、また一方で、そういうものをそれぞれ出していくというやり方もあって、その中で、10人のうちどれぐらいの方がそれに対して納得度があるのかというような評価をしていくというやり方もあるのかなと思うので、皆さん方で評価の仕方みたいなものもご議論いただいて、事務局でまとめるときに参考にさせていただきたいと思うので、よろしく願います。

(中村議長)

的確なお話をいただき、ありがとうございます。今、石原課長がおっしゃったような形で、それぞれのご意見もお考えいただければと思う。

(石原生涯学習課長)

それから、やっぱり、各個人というか、お一人お一人でやっていらっしゃると、自分のこれがこういうことだろうなという理解のもとで進んでしまうので、それぞれに、こういうやり方でいいのかというのをメールなどで相談したり、自分がまず最初に作業したものとかをほかの委員さんにも見てもらって、私はこうつくっているんだけどとか、そういうことが情報交換できるような環境というのを、今ここにいる委員さんの中で合意がとれれば、共通にメールアドレスを交換させていただいて、いらっしゃらない委員さんには事務局が個別に確認する、そういうことをさせていただけると、作業のスピードも上がってくるかなと思う。

(中村議長)

今、石原課長からお話のあった各人のメールアドレスに、個人情報保護の観点から、委員からご意見もおありだと思うが、その辺は、中だけで公開してもよろしいか。ご意見はないか。

清水委員、いかがか。

(清水委員)

時間がないので、メールでやりとりして、なかなか返事をする時間があるかなと。

(石原生涯学習課長)

メールがたまり過ぎて煩雑という方がいらっしゃったら、事務局に流して、みんなに、では、そういう形でやるか。

(中村議長)

ご異議なければ。

(石原生涯学習課長)

それぞれ、次の小委員会は小委員会の中で、その合意、また別にとりたいと思うので。

(中村議長)

では、皆さん、ご異議なければ、今、石原課長がおっしゃったように。

(石田委員)

いまいち協議の仕方の内容がつかめないが、例えば、きたまちセンターといたら、5、4、3、2、1と評価があって、それが5点とか何とかとやって、それについて、よかったらAとかBとかとやったが、その項目の中でわからなければ、公民館の人に聞いて評価をしたが、各団体の意見がまとまって入っている。それに対して、私個人がどういう評価の仕方をすればいいのか。例えば……。

(中村議長)

それについて評価していただいてもいいし、このことについて、別に評価されなくてもいいということである。

(石田委員)

アンケートそのものに対して、私は、これ、アンケートがとれて、よくまとめられていると思うが、それ以上の評価があんまり出てこない。

(中村議長)

これはもうこれで、これに対する評価はなくてもいいと思う。ご自身として、第2次生涯学習推進計画の案と実際の社会教育の現状、5市のかかわる、特にソロプチミストで参加されている中で、日ごろ思われていることという観点でやっていただいてもいいと思う。

(石田委員)

いいか。

(中村議長)

はい。つけ加えさせていただくが、ご自身が立脚されている、ご自身が所属されている社会教育関連団体があれば、今後のことはまた別だが、その点から、この第2次の計画についてどう思われるかということで書いていただいたら、基本はいいと思う。

(石田委員)

はい、わかった。

(中村議長)

このアンケートについて評価する必要はないと思う。これはもう、まとまったものと考えてよろしいかと思う。

(石田委員)

済まない。

(中村議長)

では戻るが、メールアドレスのほうは、皆さんのご了解をいただいたということで……。

(石原生涯学習課長)

事務局のほうに寄せて。

(中村議長)

事務局から、また皆さんにお配り。

(石原生涯学習課長)

そこで、私のは各委員さんへ公開していいよというご意見があれば、そこを付記していただければ結構なので、1回、事務局へいただく中で。

(中村議長)

では、確認させてもらう。2月5日の木曜日中、遅い時間でも結構だが、第2次生涯学習推進計画についての各委員さんからの評価をメール送信していただいて、個々の委員さんから配られたものは、ほかの委員の方にも事務局経由で配付されるというご理解で、それはご了解いただいたということよろしいか。

お忙しい中すまないが、よろしく願います。

では、それと関連して、先ほど、原嶋副議長と石原課長と事前の打ち合わせをさせていただいて、第3次生涯学習推進計画の策定という大きな仕事がまだ残されているわけだが、私、自宅で、調布市の社会教育計画、どういうスケジュールでつくったかというのをチェックしてみた。実際、4月から12月まで、この作成のためだけに、素案検討部会というのをつくって、22回やっている。それとは別に、社会教育の定例会で9回ということだから、定例会でこの計画について話し合われることもあつたらうが、当然ほかのことも話し合われているわけだから、第3次の案をつくるだけで、何と22回もやっているわけである。別に調布と同じようにそろえるわけではないと思うが、参考までに、22回はやっているということである。私は、やっぱり、それだけ重いものであると認識しているし、手間暇かける必要はあると思う。

ちなみに、小金井の場合は、小委員会が年間5回、定例が8回ということで、年間13回である。それだけで考えてみると、調布の例をとると、ちょっと追いつかないかなというところがある。例えば、先ほどの打ち合わせでちょっと話はしておつたが、大体、毎年7月に視察研修を行っているが、視察研修を取っ払って、その分、費用を少しでも会議に回していただく。それでも1回か2回ぐらいしかできないのだろうが、そういうこともあろうかと思うし、また、通常の間と違って、こういう大きな仕事をまとめるということがあるので、これは行政の厳しい財政の中で、ご相談ということになろうかと思うが、調布の例もあるので、多少、会議の回数を増やしていただくのも、倍にするとかというのは当然無理な話だろうが、そこを数回分、事務局から予算化の措置をお願いできないかなというのが、調布の例を見た上での私の感想である。厳しい財政状況は重々了解しているが、その辺もお願いできればと思う。

あと、小委員会は年間5回ということだが、その5回を上期に集中して設定しないと、ちょっと追いつかないかなというのも、先ほどの打ち合わせで話し合われたことである。小委員会でその案を考えて、本会議で策定するということもあり、可能であれば、5回の小委員会を上期集中型で、5回のうち、例えば4回ぐらいは上期に集中するような形にしないと、調布の例を見ても、

ちょっと追いつかないのかなというのが私の感想である。

その辺について、各委員の皆様あるいは事務局からご意見があれば承りたいと思うが、いかがか。

(清水委員)

いわゆる回数は別としても、ロードマップとして、どの時期に、どれぐらいまで、何をまとめていくかというスケジュール表をつくっていかないとなというのはある。全体としてどこまで見直すのかなというのが、私は社会教育委員会は初めてだからよくわからないが、今回評価しようというのは、どっちかという、理念、計画策定とか、背景とか、そこら辺にかかわるのが主な絡みになって、それをベースにして、具体的なほうへ転換していく素材の評価なんだろうと思う。当然、そういう全体的な話をすれば、そんなに時間をかけて云々というか、むしろ、時間というより回数というのか、集中的にやっしまえばよさそうで、その先の個々の問題になってくると、1回1回区分けして、詳細を詰めていくみたいなことが必要かなというような気もする。どこら辺まで評価あるいは見直しを入れていくのかというイメージがつかめるので、そういうロードマップをつくっていただきたい。正直、今のところ、全体がどこまでやれたのかというのは、私自身もよくつかめていなくて、そういう意味で、今の回数とか時間とかいうところも何となく意見を出しようがないが、私は、どこかで集中的に、4時間ぐらいとって議論し尽くしてしまうというのが1つの手かなと思っている。

(中村議長)

ありがとう。今、清水委員から、第3次策定、完成に向けてのロードマップというお話があった。それで、我々委員の任期が9月の上旬で切れるということで、新委員さんがいきなりこの作業に入るとなると、かなり厳しいものがあるので、調布の例ではないが、ある程度、我々の期の中で、各論まではなかなか行き着かないと思うが、総論的なところで、大きな枠組みとして、こういう方針で第3次をつくっていきこうという議論は徹底的に、我々の期の9月の上旬までの中で、それは終えなければならないとは思っている。これは私の意見だが、総論的なところ、例えば第3次をどうするかについての大きな方向性は、必ず我々の委員の中で決めてしまわないとまずいと思う。いきなり9月から新しい委員の方が来られても、おそらく、わけがわからないというのが実情だと思うので、少なくとも、総論的なところ、こういう方針で行くんだ、例えば、「共に教え合い、学び合い、共に育つ、生涯学習のまちづくり」という課題に基づいて、何と何と何と何を項目をつけてやっていくか、小金井の社会教育が向かっていく方向性については、必ず我々委員の中で、大きなところは決めていかないとだめではないか。おそらく、各論のところまでいかないのではないかなと思う。その中で、先ほどの話に立ち戻るが、小委員会でも5回あるのをちょっと前倒しにして、その辺の議論を徹底的にやっていくということだと思う。

あと大事な点は、まだほかにもいろいろ目配りするところがあると思う。例えば、長期総合計画の委員が決まって、2月から活動を開始するので、市の上位計画である長期総合計画とのすり合わせも必要になってくる。その辺との連動もあるので、我々だけでもなかなかいかない

思うし、委員だけの話では完結しないと思うし、あと、行政とのすり合わせも当然必要になってくるので、かなりやることが多いし、ボリュームもかなりあるということで、やっていかないといけないと思う。

それに加えて、前期委員からの申し送り事項ということで、前の委員からいろいろな意見を、私も委員の1人だったが、申し送り事項で、例えば具体的なお話をして、第2次生涯学習推進計画より、よりシンプルなものにするのはどうかという提言もいただいているし、その具体例としては、現状の講座を市の部局の垣根を取り外して、同じ内容と思われるものを抽出するとか、あるいは違う課でやっている重複するような内容の講座は、その内容に最もふさわしいと考えられる部局で実施するという案もある。あと大事な点は、小金井市生涯学習支援センター機能についての提言というのが、前社会教育委員から出された。それが実現できるように、この文言を入れてくださいという申し送り事項もいただいている。あともう一つ、特筆すべきは、一市民から見ても理解でき、わかりやすいものになるよう、市民目線で第3次の策定に取り組んでもらいたいという申し送り事項もいただいている。いろいろ目配り、気配りしないといけないところが、かなり多いのではないかなと思う。私は大体そういうふうには考えているが、まずここで皆様のご意見を十分、これからいろいろ、ロードマップをつくるなり、考えをまとめるに当たって、ぜひ、各委員からのご意見をいただきたい。市民の委員からは一部いただいたが、ご意見を出していただいて、方針というのか、これからの第3次策定のこと、大事な時期になるので参考にしたいが、いかがか。

それからもう1点、実は、第2次生涯学習推進計画に係る評価ということでいただいているが、例えば公運審の内容を見ていただくと、公運審の委員さんからは、結構、第3次について、こうした方がいいのではないかなという、この評価の中に紛れ込んでいるとか、入っているところがあるので、そういう意味で、この内容は、よく吟味して見ていただくのがよろしいかなと思う。特に公運審あたりは、その辺、わりと言及されている。図書館協議会さんも、いっぱい言及されている。皆さん、ご意見おありだったら、今回、特に大事なことなので、忌憚なくご意見をいただければありがたいと思うが、いかがか。

それから、もう一つつけ加えると、調布のことばかり言ってあれだが、調布市の社会教育計画、平成25年度から34年度の算定に当たって、倉持委員がアドバイザーとして名を連ねておられるので、倉持委員には、これからもご活躍いただくことになろうかと思う。心強いなど。

(樹委員)

基本的に、ぎゅっとまとめてというか、あんまり間をあけないで議論していくということに関しては賛成である。やはり、会議の日程があいてしまうと、前の議論が何だったのかということのみんなが思い出すのに時間がかかってしまうし、私は今、放課後子どもプランのほうに行かせていただいているが、やはり、そこも間があいてしまうと、前のときにもものすごく盛り上がった議論があったのに、次は違う課題から始まっているということがよくある。社会教育の今回のことに関しては、違う話題に移ってしまうということはないとは思いますが、みんなで出し合った意見が

熟する前に時間が来てしまうということはたくさんあるので、なるべくまとめてやっていくというのはいいと思う。

あと、小委員会の日程に関して、小委員会に入っているメンバー以外の方にも、しっかりとご連絡をいただければと思うし、傍聴という形になるのかわからないが、やはり、小委員会の方たちと、それ以外の社会教育委員のメンバーの考え方の差というか、温度差ができてしまうと、本会議で幾ら議論をもんでも、なかなかついていけないというのが本音なので、できる限り、小委員会の場にも顔を出させていただいたらいいかなと思っている。今回の2次計画に対する総括的な評価をと言われて、今、私も、どういうふうにすればいいのかなというのが、まだちょっと思いつかないという感じなので、できれば、小委員会でもんで、ちょっと先に議論をしてくださっている方たちが、こういうふうに評価をしたらどうかというような、何かベースになるようなものを見せていただけるとありがたいかなと思っている。

以上である。

(中村議長)

ありがとう。なかなか鋭い指摘で。

(石原生涯学習課長)

事務局から、来年度の小委員会の件とかについてだが、ちょっと財政的に厳しくて、回数については、本年度並みという方向性が示されている。ただ、小委員会について、議論が第3次の生涯学習推進計画の話が主になってくるので、そこについて全体共有ができるように、小委員会についても、本会議の人数で参加できるようにということについては、今、予算の要望を出しているところなので、財政的な措置ができれば、今、樹委員からおっしゃっていただいたような小委員会も、全体共有でということができていく可能性がある。

(中村議長)

やっぱり、みんなでやっていくべきことだと思うので、そのあたり、ぜひ、お願いできればと思う。オブザーバーとか、小委員会に入っていると、そんなこと関係なしで、やっぱり、社会教育委員として、統一した見解、情報の共有というのは大事だと思うので、ぜひ、そのあたり、お願いする。

あと、先ほども申したが、今期の社会教育委員については、もう視察研修なしでもいいと思う。その分かかるお金を会議に振り向けていただければと思う。これはお願いである。

例えば、調布の例をとって見て、スケジュール的にいうと、大体同じような形で動いていて、素案検討部会だけで申すと、4月に2回、5月に4回、6月に4回、7月に1回、8月はなしで、9月は2回、10月が5回ということで、やっぱり、樹委員がおっしゃるように、集中的にやっている。我々もこれに倣って、やっぱり、会議の間隔を置くと忘れてしまう。それはあると思うので、議論を覚えている、記憶が薄れないうちにやってしまうというのは大事なことはないかなと思う。いい意見である。

あと、小委員会のメンバーであるとかないとかは関係なしに、社会教育委員として、情報の共

有化ということで、先ほど予算措置の件も交渉していただいているということなので、期待している。

(清水委員)

ぱっと両方を並べると、調布市さんのものはシンプルで、逆に、それだけ何をしたいんだというのがわかりやすい。小金井市のは非常に項目が多くて、全体として、だからどうなの、何をしたいの、実際どうできているのと、かえってわかりにくくなってしまう。2つ並べると、厚さも違うし、文章なんかも、調布は親しみやすい。読んでいる人も、何となく親しみやすさを感じるのではないかなど。ただし、10年間これで進んでいいのかなどというのもあるので、うちみたいに今回つくるのからというのはあるが、何となく、そういう全体の構成も、こっちをある程度参考にできるといいのかなど。あまりに項目が多くて、ほんとに焦点がどこにあるのかわかりにくいなという印象がある。

(中村議長)

調布のは、結構、的を絞っておられるような感じは受ける。小金井は、わりと事細かくやっているということで、その辺も、ちょっと議論すべきところだと思う。

樋口委員、いかがか。

(樋口委員)

樹委員が言われたように、今回の13日までにやって、評価に関しても、私自身も、どういうふうに押さえてやったらいいのかというのが漠然としている状態なので、大まかな部分、中村議長が大きい部分ではすごい言ってくくださったが、それでもどのぐらい、どういう評価で、どういうふうに押さえてしたらいいのかというのをつかみかねているのが現状で、あと、先ほど清水委員が言われていたように、全体の流れとしては、今回の評価だけではなく、3次の作成をしていくのには、やっぱり、大体、大まかに流れを示してくださるとやりやすいというのはある。

(中村議長)

ロードマップということか。

(樋口委員)

はい。

(中村議長)

このくらいの時期までにこれこれを完成させるというロードマップは必要になってくる。その辺は、我々社会教育委員と行政、事務局とすり合わせさせていただいて、実際の作業としては4月から入ってくると思うが、遅くとも3月までにはロードマップをつくって、皆さんにお示ししないといけないなど。

(石原生涯学習課長)

議長、ロードマップの件で、全体の合意的に、今、清水委員が言われたように、調布市などを参考に、大綱的なものでつくるということであれば、ロードマップの素案をつくるような期間を短くすることもできる。必然として、今回のように、各事業のところまで入れていくとか、どう

いう方向性、方針的なものにしていくのか、生涯学習は分野が広いので、手広く自分たちの考えが伝わるようなものにしていきたいというのがあると、検討の期間なども長くしていく必要があるのだから、そのあたりの道筋も示していただけると、ロードマップの期間の設定ができるかなと。

(中村議長)

それは範囲の問題か。

(石原生涯学習課長)

前回と同じようなものをつくるのか、それとも今期中では、この中のここまでしかつくりたくないみたいな、そういったところをこの中で合意ができると、大体、ここまでだったら、このぐらいの期間でおさまるとか、そういったものが見えてくる。

(中村議長)

それは我々の期の中で、どこまでやるかと。

(石原生涯学習課長)

まず、一番最初に、その方針を出していただけると、ロードマップを出して、これでは短いや長いといった議論が再燃する心配も少なくなる。

(中村議長)

着地点をどの辺にということか。

(石原生涯学習課長)

はい。

(中村議長)

今、石原課長からあったが、2次と同じような形で細かくやっていくのか、あるいは調布のように細かくせずに、どちらかという、あるべき方針的な感じ、概論的というか、総論的というところにしていくのか、その辺の議論ということか。

(石原生涯学習課長)

はい。

(中村議長)

それによって、ロードマップの内容も変わってくる。

(石原生涯学習課長)

そうである。作業の長さが変わってくる。

(中村議長)

どうか。これまでの2次のように細かくやっていく必要があるかどうかということについて、ご意見がおありか。これ、かなり細かい。

(清水委員)

第4章を見ると、17ページから67ページぐらいか、この中で各分野でどんな項目があるか全部洗い上げて、繰り返しているという感じ。ある意味では、アンケートというのは、こういう

各施策の中で、実際携わっている人がどういう意見を持っているかを取り出したんだと思うが、その結果を1章から3章ぐらいのいわゆる基本方針的なところへ反映させた上で、ある意味で、第4章は機械的なことではないかなと。

(中村議長)

4章は各論である。

(清水委員)

各論の、ほんとに細かいところをあまりつついてもしょうがないのではないかという気がしている。しかも、ページ数をこれだけとる意味があるのかというあたりで見直していく。要は、第4章、一番大きな分量を使っているところは、ある意味では機械的に進めるような作業のところかなと。

(中村議長)

そうである。今おっしゃったこと、結構、建設的なご意見だと。それで、要は、第2次生涯学習推進計画のうちで、第1章から第3章までは概論的なところであって、第4章が政策の展開ということで各論にもなる。各論部分まで入れていくものかどうかと。清水委員としては、各論のところはもう。

(清水委員)

ええ、あまり入れずに。

(中村議長)

ここを入れるか入れないかで、大分、作業は変わる。ボリュームは変わってくると思う。

(清水委員)

むしろ大事なのは、各論的な世界で出てきたアンケート結果を、前の総論の中にどう反映させ、今回の社会教育の方がどう思っているかと、そこでまた投げれば中心になる。そうすると、そんなに分量を使いというか。

(中村議長)

4章は各論だし、1章から3章までだけでも、十分、体をなしていると思う。

(倉持委員)

済まない、おくれて来て文脈がわからないことがあるが、私は4章は計画の中身だと思うので、4章がないんだったら、計画はないに等しいと思う。それがないと、とにかく事業展開の根拠とか、小金井市がどういう目標を立ててやっていくかということがなくなってしまうので、ここはむしろ、とても重要な部分なのではないかと思う。

しかし一方で、形式的な部分とか、網羅するかみたいなことに関しては議論していく必要があるのではないかなと思うが、方向性は幾つかあるといった議論がよくわからなくて、調布の場合は社会教育計画なので、社会教育の担当部署が持っている事業しか入っていないと思うが、小金井市の場合は生涯学習推進計画なので、小金井市が持っている生涯学習課にかかわらない全ての事業がここに掲載されているという、そもそもが違うわけである。

今、立川市の生涯推進計画を直す相談を受けていて、立川市は生涯学習推進計画だが、他の部署が持っているいろいろなところまで把握するのも大変だし、網羅しきれないということもあって、今回、生涯学習の担当部署が持っている事業に絞って計画をつくり直すとおっしゃっている。

でも、生涯学習というそもそもの考え方からいうと、いろいろな領域をまたいで学習的なことをやっているということ、こういう形で整理するというのが意味があるのではないかという考え方もあると思う。ただ、持っている担当部署が違うわけだから、責任はそれぞれのところにあって、実質的には、中身に関して口出しはできないというジレンマはあると思うが、方針を示してくださいとおっしゃった中身というのは、どのあたりの方針ということでおっしゃったのか、済まない、もう一度教えていただければと思った。

(石原生涯学習課長)

過去つくったものがあるが、こちらを焼き直すに当たって、適切な作業時間、検討時間を設定したいというところで、機械的な話で、どのぐらいの作業量とかが必要なのかという基本として、今のうちの課内での評価でも、各課の事業とかについて、総花的に、カタログのように、これは生涯学習に位置づけがあるんだよと一覽的につくっている感というものも多分にあるので、これを実効的なものにしていく中で、ここまで表みたいなので、生涯学習推進事業なんだからと示す必要があるのかというようなところで、総論的なところ、総論と各論は矛盾しているわけにはいかない、総論の中に各論もこういう縛りが出たろうということまで書き込めば、こちらの分量というのは、多い少ないは別として、そこがその中に明示されれば、各論の作り方というのは機械的なつくり、総論でこういうふうな方向性が明らかに出ているので、各論の部分の書き込みというのはこうならざるを得ないなということまでを今期中で作り込んでいただけるのか、それとも、読み方によってどのようにも読めるような総論を提示されて、その読み方については各論に委ねるという方向性になるのかということ、今の中でも、26年度の前半で素案をつくるというようなスケジュールを過去に提示しているので、今年度いっぱい現計画の評価というところになっていて、来年度のを非常にコンパクトにしていかなければならない中で、この時点で、大体作り方のイメージみたいなものを固めていただきたいというのが私どもの枠組みである。

それと、先ほど調布の回数例などもご紹介いただいているが、調布市さんとちょっと違うところは、小金井の場合、2年前に延伸をかけているということ、それまでに、この計画についてどうかという議論は前段階であり、それから2年延伸をかけた後も、3次のことについて、ずっと議論はされているという素地があるので、このスケジュールどおりになっていなくても、今まで議論の積み重ねがあるので、今年度いっぱい評価でもできるのではないかと事務局では考えているところはある。

(原嶋副議長)

今の倉持さんのご指摘の中で、例えば、これを見ると、環境、ごみ対策とか、水道とか、こう

というようなもののくくりまで広げていいのか。今、立川あたりは、やり方を参考に伺っていたが、確かに生涯学習って、環境学習と無理に持っていけばそうかもしれないが、では、生涯学習部がそこまで目を使って、進行状況とか評価までできるのかと、なかなか入り込めない分というのがある。どの辺のくくりまでやっていくのかというのを、これは議論の中でやっていくのかもしれない。共通的なのは、清水委員がおっしゃったように、もっと具体性の、わかりやすい、そういったものを、前の委員の方も含めて提供があったので、その辺は視点としてやっていくが、どこまでくくりとしてやっていくのかというのを評価しながら考えるしかない。

(倉持委員)

多分、具体的な事業名があったほうがイメージはわくという意味では、今、相当、網羅的にはやっているが、関心がある人が見れば、事業名でイメージしやすいというメリットはあるのではないかと思う。もちろん、あらゆる視点から、生涯学習というくくりで全庁的に横につなぐという観点を重視するんだったら、こういう網羅的なもの。そうではなくて、方針だとか、目標だとかというところを浮き立つような形で作るんだったら、例えば重点施策とか重点課題みたいな形で、主に生涯学習課あるいは教育委員会が持っているような事業を中心に重点事業として紹介して、関連事業みたいな形で二段構えに、そっちは詳しくは載せずに羅列だけするとか、あるいはそもそも載せないとか、考え方は幾つかあるような気がする。ただ、事業名を全く外してしまうと、個人的には、やっぱり計画だから、理念だけの計画になってしまうと、具体性みたいなのが乏しくなってしまうので、少しは、具体的には事業名みたいなのを残しておいたほうがいいのかなとは思いますが、量みたいなこと、位置づけみたいなのは、たくさん議論して、検討したほうがいいかなとは思う。

(中村議長)

今おっしゃったように、例えば、この48ページとか49ページあたりを見ていただくと、経済課の担当の1日生活教室とか、その実績がどうで、18年の実績がどうだ、ライフステージ対象、私は、ここまでやる必要はないような気がする。これは、例えば1日生活教室という項目だけ書いておいて、同じように、それも項目だけ書いておく。例えば、生涯学習に関する一番肝のところをもっとある。そういうところだけは、このように事業内容、実績、ライフステージ、方向性、その辺はきっちり書く必要がある。それによって、大分、仕事の量は減るのではないか。そういうことを考えていかないと、時間がかかってしょうがないと思う。

(倉持委員)

今、目黒も出ているが、目黒は、生涯学習推進計画を立てるために、社会教育委員会ではなくて、推進計画の実行委員会みたいのをつくっているが、そこには、例えば商工会議所の人だとか、近隣の保育園の園長さんとか、消費者団体の代表だとかというふうに、それこそ一見、生涯学習関係団体ではない方の代表も、結構、たくさん的人数で公募委員ということであらうし、まさに、生涯学習という観点で、いろいろな部署をまたぐということをつくっているところもあったりする。だから、考え方次第というところもあるし、作業量からいうと、確かに網羅という

のは、努力しただけの成果がどれだけあるかみたいなのところもありかもしれないし、かえって、小金井の社会教育のこれからみたいなの特徴みたいのを打ち出すとすると、確かに網羅的にすると薄まってしまうというところはあるかもしれないし、その辺をどう考えるか。

(中村議長)

先ほど申したように、前期委員からの申し送り事項なんかでも、2次よりシンプルなものにするのはどうかという提言があった。繰り返しになるが、現状の講座を部局の垣根を取り外して、同じ内容と思われるものを洗い出す、こういう意見、今のお話。重複する内容の講座は、その内容に最もふさわしいと考えられる部局で実施してもらい、こういう意見も出ているので、こういうのは厚いのでなしに、やっぱり、こういう薄いのにしてまとめたほうが、読むほうも、つくるほうも楽ではないかと。もっと的を絞って、生涯学習に傾注して、掘り下げて書いたほうがいいのではないかと思う。もちろん項目としては、生涯学習に関連することということで、書く必要はあると思うが、細かく、実績がどうだとか、ライフステージ、方向性、担当課、そこまで……。

(倉持委員)

コンサルがやるのだろう。コンサルを入れるのだろう。

(石原生涯学習課長)

入れる。

(倉持委員)

作業自体はコンサルがやってくれるはずなので。

(石原生涯学習課長)

その年で抜けてしまうので、その後、転がしていくときに必要かどうかというようなところも。あと、進行管理とかは生涯学習課でやらなきゃいけないんで、ここに書いてあるものは一応、年に1回はヒアリングなりして、できたのか、できていないとか、数字を出せとかという作業が全庁的に……。

(倉持委員)

それは生涯学習課としては大変だ。毎年の仕事は大変だ。

(中村議長)

倉持委員は、いろいろな市のこういうアドバイザーをやっておられるが、ほかの市はコンサルとかは入れていたのか。

(倉持委員)

入れるところもあれば、職員さんが書くところもあれば、調布なんかはかなり、職員と住民とこちらとで議論しながら書いたりしていた。

(中村議長)

ということは、コンサルは入れなかったのか。

(倉持委員)

調布は、評価と調査のために、そっちはコンサルを入れていた。団体のヒアリングとか、評価、

調査みたいところで入れていた。立川は職員が書いている。ほんとに市、自治体による。

(原嶋副議長)

今おっしゃった後でつけ加えては何だが、調布のを見ると、市民のウエートの、相当、ヒアリングしている。この数字によると、例えば486だと。小金井は、そもそも出発点からやり方が違っている。はっきり言って、きつい言い方をすると、表面的なアンケートのとり方だと思う。僕も十五、六人しかとっていない。出発点が違うから、それはそれとして追いかけてもしょうがない。それで、こういう実態把握の中でどこまでできるのかというのを考えるということがあると思う。もうここまで来て、また調布に並ぶなんて無理だし、それはそれで、きつい言い方をすると、このアンケートをとりながら考えたのは、アンケートをされた方には非常に申しわけないが、何年か後を計画として捉えていない。つまり、そこの現実、例えば市民体育祭、おもしろかった、楽しかった、もっと頑張れとかある。では、何年後をどうしていくのかまではわからないわけである。だから、ざっくり言って、これの修正ぐらいのところ、僕の担当としては、イメージがある。例えば、障害を持った方たちへのスポーツの対応とか、お年寄りへの対応とか、そういったことで、あまりイメージされないで計画を練って、視点として、これからはとても大事なことだなど思っているので、もし、僕なんかページを与えられたら、とってもいいことが書いてあるので、これに加除修正を加えるとか、先ほどどなたかが言ったように、事業と中身がちよっとおかしい、文字表現が違う、そのレベルなのかなと思っている。

(石田委員)

私は、第4章は結構大事だなと考えている。やっぱり、課、担当が重複しているというのがすごく、私がざっと見ただけでも、この前、アンケートをとりながらも、ここはここだけ1本でやればいいのではないのというようなところが出てきていたので、そういう見直しを第3次の中に繰り入れるということのある程度の作業の目標にしていくことが、何年後かの見直しに通じていくのではないかなという気がする。

私、はっきり覚えていないが、図書館の評議員で何かやったときに、それは図書館の管轄である、それはこっちの管轄であるというような回答があった記憶があって、そういうときには図書館に全部委ねてしまえばいいと思った。だから、この中で結構重複しているし、生涯学習と指導室とここをやっているし、そういうものをまとめていく作業のみでも、結構、時間はかかるので、そういう方向性を。そうすると、前期間の申し送りのページ数を少なくするということもできると思うし、それが行政の管轄の作業にどう反映するかはわからないが、市民からすると、例えば生活に困ったからお金が欲しいといったときに、こっちの課に行け、あっちの課に行け、ここにも行けということがなくて、1本に全部まとめられれば一番いいわけなので、方向性として、それに通ずるものがあると思う。そうなっていきたいなど。

(小山田委員)

私も、今、皆様のいろいろなご意見を伺っており、まず時間がないというのはあるが、だからといって、安易な方向というか、簡易な方向に走り過ぎても、これは、せつかくつくられて、あ

と何年間かということであるので、その時間内で最善を尽くすということが、まず一つあるかと思う。

ただ、もちろん、時間に限りがあるということで、私も、やはり生涯学習なので、全領域を網羅したものというのには必要ではないかと。ただ、今いろいろ言われている重複するものとかをまとめていくとか、あと、今、石田委員が言われたような形で、もう少し内容を、今回のをもとにして、もう少しシンプルにということでも、分量を減らすということはあるかと思う。

子ども・子育て関係だと、平成27年度から新法というのができて、今、子ども・子育て会議というのも開かれていて、新しい施策が入ってくるので、やはり、そういうところも少しは入れていきたいというようなことも考えたりするので、よりシンプルに、ただ、網羅して重複するものとかをコンパクトにしてということで、まず、生涯学習のところは重点を置いて、そういった張りをつけた形で最善を尽くすというのがいいのかなと思った。

(清水委員)

第4章についてのお話で、ここは具体的事業で、大変大事なことだよというお話もわかるが、例えば私が関係する、さっきの経済課の48とか49あたりの内容って、実施している本人から見れば、生涯学習の事業だという意識は一切ない。それが生涯学習として意味があるんだということを担当者に伝えていくという、また別な意味で必要かもしれないが、やっている本人は、そういう意識は一切ないし、ここに挙がってくるのという、そんな気がしている。

一方で、市民の芸術文化活動への支援という中には、はげの森しなくて、私なんか携わっている小金井薪能とか、いろいろなコーラス団体とか、文化活動っていろいろやっているのに、何でこれしか出てこないんだらうと、1件1件見ると、非常にそういうところが残る。ほんとに小金井市の生涯学習的な項目を網羅しているかということ、そうではなくて、正直、たまたま、担当課が気のついたものがあるというふうにはしか見えない。ただ、本来、生涯学習として非常に重要な項目というのはあって、それもこの中に網羅されているから、いわゆる見切りで、この中いろいろなものがある。それを整理すべきなのかどうかと、先ほど、整理、一本化しろという仕分け作業みたいな格好で、実際、具体的にその事業をやっている人から見れば、一本化されたくないよ、私たちは私たちでやっているんだから、同じようなことをやっても、それはそれでいいじゃないという、そういう話のところを仕分けして、これでまとめて、これにしましよみたいな生涯学習の中に書いてしまっているのかというのがあって、私は、具体的内容は大事だよということはいいと思うが、少なくとも、現在ある17ページからの一覧表は、ほんとに表だけで整理していいようなもので、その中で、大事な項目としてピックアップするか、それをあんまり具体的な事業と言わずに、少し概略的な事業にまとめて整理する、調布なんかはそうである。概念としてまとめて、そういう事業全体を事業として振り分けているという書き方をしているので、どっちかという、そういう書き方のほうがいいのではないかと。やっぱり、現状あるものを一個一個精査するというのは、あんまり意味ないと思う

(中村議長)

特に4章の施策の展開のところ、直接、生涯学習にかかわるところと、例えばの話だが、51ページのところに水道なんでも相談とか、こういうのは果たして生涯学習と関連してくるのか、あるいは浄水場の見学、こういうのは社会教育に入ってくるのかといった議論は必要ではないかなと思う。特に概論の計画部分の各論で、この辺の事業について、もう一度、徹底的に、一つ一つ、これらが生涯学習の範疇の入るのかどうかというのも必要になってくるのではないかなという感じはする。例えば、52ページの交通安全関連、交通安全啓発事業、生涯学習かなという感じはする。だから、そこら辺も、もうちょっとスリムに、シンプルにしていくということである。

ただ、4章のこの部分については、倉持委員からのお話もあったが、個別の計画ということで一番大事なことだが、その中に、生涯学習のほとんどの分野に含まれないようなものも多々あるような気がする。その辺の精査も必要になってくるのではないか。あと、石原課長がおっしゃったように、この辺の施策の展開のところを1章から第3章に包括させるかどうかである。4章を吸収して、ほかの章に入れていくかということも出てはくるかと思う。そのためには、4章の1節から4節の各論の部分の内容を精査する必要があると思う。そして、シンプルにしていく必要はあるのではないか。

それから、私、全体的に思うが、第2次小金井市生涯学習推進計画をつくったときから大分月日がたって、今、社会教育、もっと変わっているところがある。例えば図書館関係でいうと、今、学校図書館にもっと傾注するという話も出ていて、それ、たしか予算化される。課長、4月から、学校図書館に関する国からの通達で、予算化されるんですね、何かそういう記事が出ていた。

(上石図書館長)

記事は見たが、学校図書館のほうは指導室の所管です。

(石原生涯学習課長)

補足するが、実は生涯学習の分野には、その通知が一切来ていない。国は完全に学校内部の問題として捉えていて、実は生涯学習推進計画の中ではないが、同時期に、小金井市は子ども読書活動推進計画というのをつくっていて、生涯学習計画と同時期に見直しをかけることになっている。その中では学校図書室というのは出てくる話にはなってきたが、特にそういう意味でいうと、そこら辺の連携をどうするかについても、これはもう、実際、考えていただくような話にはなっていくと思う。ただ、今、国としては、生涯学習というイメージを持って、学校図書室を考えている節がちょっと見られないかなと。後で通知が来るのかもしれないが、今のところは、ちょっと違うような感じのところはある。

(中村議長)

私、今の話と関連して、生涯学習の範疇、範囲をどこまで規定するかというのは大事ではないかなと思う。個別の事業を精査するに当たっても、どの辺までを生涯学習で捉えるかという議論は必要ではないかなと思う。それをしていかないと、時間にも、仕事量にも、本質的なところにもかかわってくると思う。やっぱり、小金井市としての生涯学習の範囲をある程度明確に規定し

なければ、例えば、個別の事業の見直しとかに役に立たないのではないかなというような気がする。そのことで全体として議論は必要ではないかなと思う。私は、その辺もどんどん深掘りして議論する必要はあるような感じはする。

あと、生涯学習推進計画の下に、こういうキャッチフレーズがある。この辺も、やっぱり、素案の段階で、きっちり、いいものをつくっていかないといけないなと思う。

それから、ちょっと話が飛んでしまうが、長期総合計画の委員とのすり合わせなんていうのは必要なのか。

(石原生涯学習課長)

一応、長期総合計画が市の上位計画なので、そこと全く逆の方向性とか出ていくものはあり得ないが、ただ、長期総合計画って市の計画なので、教育委員会については、あまり細かなことを書き込めない。市長がやる話で、教育委員会がこうやれということは言えないので、教育委員会に大分気を遣った書きっぷりになってくると思うので、そこは教育委員会全体の計画とか、個別に持っている計画の中では、わりと書き込みの自由度は高いのかなとは思っている。ただ、施設みたいなものについては、市の財政的な裏づけがある話なので、上位計画にないものを下位計画で大きな予算がかかりそうなものを書き込んでいくのはいかがなものかという話になってくる。

(中村議長)

考え方はお任せということで。

(清水委員)

ただ、今おっしゃっていたのは、例えば、この本の7ページに、小金井市における生涯学習の推進とある。これは大きな変更はないわけで、だから、どこまでかって、範疇なんだろう。1、2、3、4、5までであると。

(石原生涯学習課長)

この辺は、他市の事例とか、あと、今、文科省とか東京都がどういう捉え方をしているのかとか、もう1回、精査してみる必要はあると思う。あまり事例というか、今の国の考え方と全く違うようなことをうちで生涯学習と捉えてしまっても、それはそれで問題があるかもしれないので、その突き合わせはあるかもしれない。ただ、常識的にいって、あんまり大きく変わるということはあるかなとは思っている。

長期計画については、管理職で全員、長期計画の本部員、各部会員になっていて、そこでいろいろ議論をしている中でもあるので、そこで待たがかかっているような議論について、書き込みが深くなっていくようなときは、ちょっと待ってくださいというように、こちらでもお願いする。

(中村議長)

そのあたりの情報の共有である。長期計画審議会、長期計画委員会、出られたその情報を、やっぱり、逐次、流していただければありがたい。特に生涯学習の社会教育に関するところは、逐次、社会教育委員の本会議でフィードバックしていただければ、論議も助かる。

それで、今ここではなかなか議論はまとまらないと思うが、4月から実際の作業としてスタートするわけだから、各委員さんのレベルでいいと思うが、どういうポイントでこれをつくっていくかということは大前提として、それぞれの委員でお考えいただければと。その最大公約数的なところで落としどころがあるかと思うので、ちょっと深く考えていただければ。4月まで、まだ時間があるような、ないようなところだが、考えていただく。

あと、会議のスケジュール的なところ、予算的なところ、回数も含めて、それって、大体いつごろわかるのか。

(石原生涯学習課長)

来月の2月13日のときに議案書とかができ上がってれば、皆さんにお知らせができるのかなと思う。

(中村議長)

その辺の回数のほう、できる限り、厳しい予算であるというのは重々把握はしているが、ご理解、交渉をよろしく願います。

では、協議事項(1)については、大体そういう考え方でいくということで、皆さん、ほかに意見はないか。

(原嶋副議長)

今日の一番大きな課題は、やっぱり、ロードマップを明確にして、皆さんの任期の間だから、9月まで、そこまで僕たちが何ができるのか。その次に、どう引き継ぐのかである。そのところが、誰がどう構成していくのか。小委員会に任せられているのか、今日のお話を伺いながら、それはそれでよろしいのか。

(中村議長)

そうである。ただ、さっき、小委員会のメンバーを増やすというお話もあったから、それと関係してくる。そういうことである。その辺は、2月にわかるわけである。それがどう出てくるかによって、また変わってくる。それに全員が入るということであれば、小ではなくなるということで、小委員会とかは関係なくなる。その辺のロードマップは、素案として、2月ないし3月にはお示ししないとイケないと思う。我々と事務局で詰めながら、我々の期で、どこまで、どういう内容まで決めていくかというのはお示しする。それは2月、3月、まあ、3月の上旬ぐらいか。それをしないとちょっとまずいと思うので、間に合わない。4月から、すぐ動き出せるように準備するという感じである。

(石原生涯学習課長)

もし、コンサルの予算とかがついて、契約の関係があるので、4月いっぱいには契約ができないので、コンサルの人は携われない。

(中村議長)

初めのところではそんなに、いいのではないかなと思う。どっちかという後半部分で、まと

めるところではないかと思う。

では、大体、今のようなスケジュール的なもので、2月、3月ぐらいでロードマップを考えて、お示しして、実際の作業としては4月から、樹委員からもお話があったが、なるべく会議の間隔を置かないような形で、できる限り連続して、月の限度はあると思うが、会議のスケジュールを入れてやっていくということ。なるべく9月の上旬までに、できるだけ小委員会のほうも。別に決まりというのではないわけだから。次期の委員の方にそれをお任せするというのは、なかなかきついものがあると思うので、これまでの引き継ぎもあるし、我々の中でいろいろ議論されてきたこともあるので、会議については、なるべく我々の期でたくさん入れていく、小委員会を入れていくというような感じで進めていただく方向性ということでもいいか。

今の件で、ほかにご意見とかご要望はないか。よろしいか。

では、協議事項（1）は終わりにする。協議事項（2）その他である。

事務局から何かあったら。

（2）その他

ア 会議録について

（石原生涯学習課長）

前回の会議録だが、本日、校正がまだ間に合っていないで、決定版をお配りできていない。個別にメールなどで修正したものを送らせていただくので、お気づきの点があれば、ご指摘いただいて、完成版をメールにて送付させていただきたいと思うので、よろしく願います。

（中村議長）

協議事項は以上か。

（石原生涯学習課長）

以上である。

2 報告事項

（1）平成26年度成人式について

（中村議長）

では、報告事項（1）平成26年度成人式についてということで、事務局。

（石原生涯学習課長）

成人の記念行事については、1月12日の成人の日に、市民交流センターで開催させていただいた。来賓としてお見えいただいた中村議長さん初め社会教育委員の方々には、お休みのところご参加いただき、ありがとう。

市内の成人の対象者として、今年度中に成人になられる方々が1,241名いらっしやって、当日は735名の方にご参加いただいた。ちなみに、男性の参加が398名、女性の参加が337名、対象者に占める参加率は59.2%だった。

成人の日の報告については以上である。

(中村議長)

ありがとう。

成人式については、社会教育委員から半分の5名の委員にご参加いただいた。お忙しいところ、ありがとう。

感想などあったら、石田委員から。

(石田委員)

社会教育委員としては、壇の上でおじぎをただけだが、成人式の着物の着つけのほうでかわらせていただいて、男の子ですごく目立って、2階席にいて、一度出て行って、また戻されたのを見ているとわかった男の子が、はかまがずるずるだったので、「ちょっと直してあげるからいらっしゃい」と言ったら、来て、直してあげたら、「助かりました、ほんとにありがとう」と言って握手をして帰った。やっぱり、個別に扱うと、いい子だなと。今年は着崩れている子は少なかったが、全部で30名、風が強かったので、振り袖の下の襦袢が全部ばらばらになっていて、でも、それも本人が気がつかないことが多かったので、そういうのを直す、30名から50名くらいしたのかなという感じだが、総じて、おとなしかったなという印象は得た。でも、かわいかった。

(中村議長)

社会教育委員からは、私も含めて5名の方が参加したし、市の職員の方も、お休み返上で、お疲れさまである。

では、成人式については以上で、報告事項(2)第27回多摩郷土誌フェアの開催について、事務局。

(2) 第27回多摩郷土誌フェアの開催について

(石原生涯学習課長)

多摩郷土誌フェアは、1月17日と18日の土曜、日曜の2日間に、午前10時から午後5時まで、18日は午後3時までだが、立川駅北口にある女性総合センター・アイムにおいて、多摩25市2町の共同事業として開催した。

郷土誌フェアの概要については、各市の郷土関係の資料を展示し、販売するという内容で、2日間で592名の来場者があった。小金井市の販売図書については、合計66冊販売ができて、1万8,700円のお買い上げ金額だった。ちなみに、一番売れたのが、本日、皆様にもお配りさせていただいた『小金井市の歴史散歩』で、1冊100円で48冊、4,800円のお買い上げをいただいた。

以上である。

(中村議長)

ありがとう。

今、多摩郷土誌フェアについてご説明があったが、ご意見とかご質問はないか。

よろしいか。なければ、報告事項(3)図書館サービスの見直しについて(答申)、図書館長。

(3) 図書館サービスの見直しについて（答申）

（上石図書館長）

資料、当日配付で申しわけない。ごらんいただきながら、簡単に説明させていただく。

10月30日に、図書館サービスの見直しについてということで、小金井市図書館協議会へ諮問した諮問書を1ページ目につけている。

内容としては、図書館のサービスを見直すということで、大きな問題として、3つほど諮問させていただいている。

平成27年4月に東分室の運營業務委託化、2番目として移動図書館車運行廃止、3番目として、それに伴う西之台図書室の拡充などということで、ご意見をいただくということで諮問をさせてもらった。

おめくりいただいて、答申ということで、12月12日に小金井市図書館協議会から答申をいただいた。諮問してから1カ月半という短い期間で答申をいただき、その間、4回の協議会と1回の小委員会を開催していただいた。ご尽力に深く感謝する。社会教育委員の会議からは石田委員に出向していただいておりますので、ほんとうにありがとう。

答申書は、表紙1ページと内容4ページ、最後に開催日程の資料1ページということで作られている。では、簡単だが、説明に入らせていただく。

はじめにということで、貫井北分室の誕生を契機に、図書館全体のさらなる発展を願うこと。NPO法人による運営を今後もさまざまな角度から継続的に検証していく必要があると考えるが、「見守り育てていく」という方向で、次へのステップを期待するということが記載されている。

次に、ゴシック体で、諮問内容に関する現状分析ということで、諮問内容を3項目に分け、個別に記載されている。

まず、(1) 東分室の運營業務委託化についてだが、1つ目として、貫井北分室に関する中間評価をしたことの総括的な意見、2つ目として、東分室の現状と委託化についての意見、最後3つ目として、委託後の見込みについて、計画のプラス面、サービス拡充を評価し、サービス拡充に伴う不足なき予算措置を条件に委託化の方向性を了としたと記載されている。

次に、(2) 移動図書館車運行廃止についてだが、利用者の声を十分に聴取し、今後、丁寧な説明を求めることなどを指摘し、財政事情を勘案し、やむを得ないと判断したと記載されている。

おめくりいただいて、2ページに、(3) 西之台図書室の拡充（案）についてということで、現状、施設が古く、規模も小さいので一刻も早く計画を実施するようという指摘が記載されている。

次に、それぞれの実施に向けて配慮・留意すべき事項ということで、(1) 東分室の運営については、3項目挙げられている。1つ目として、利用者の声を積極的に聞く機会を設けること。2つ目として、定期的な図書館利用者だけでなく、対象地域のニーズの把握に努め、地域に適した図書館運営に努めること。3つ目として、配属されたスタッフは司書有資格者とし、十分な研修の機会を与えられ、図書館職員全体と交流できるよう努めることと記載されている。

また、前期の12期の図書館協議会の出した答申の中から、「NPO法人による業務委託の際の留意事項の項目」、3項目を挙げられて、こちらも参考にすべきということで記載されている。

次に、(2) 移動図書館車運行廃止については、2項目挙げられている。1つ目としては、廃止に当たって、十分周知を図ること。2つ目として、宅配サービス等代替となるサービスの充実、新規サービスについて研究することと記載されている。

次に、(3) 西之台図書室の拡充についてだが、2項目挙げられている。1つ目として、図書館側が示した拡充(案)が速やかに実施できるよう努めること。2つ目としては、西之台図書室の拡充についての周知に努めることと記載されている。

西之台図書室は、ほかの3分室と同等に位置づけることは難しく、今回の措置は最低限の拡充方策である点、新館建設もしくは代替施設の検討を指摘され、最後に、拡充のための財源については、移動図書館車運行廃止の財源をもって充てるという強い要望が記載されている。

3ページの小金井市立図書館の充実に向けた長期的展望ということで3点挙げられ、それぞれの視点を記載し、これらについては、今後、意見をまとめて提言を行いたいと記載されている。

内容は、1つ目として質の高い図書館サービスの提供、2つ目として小金井市の資源を活かした図書館経営、3つ目として中央図書館の整備に向けた構想となっている。

むすびにということで、4ページ目に、図書館の答申を最大限尊重することを期待すると締めくくられている。

以上、簡単だが説明になる。今後、いただいた答申等を勘案して、市として考え方を精査し、決定した上で、事務手続等、遺漏のないよう進めてまいりたいと思う。決定した内容については、また今後、こちらの委員会にも、何らかの方法で報告させていただきたいと思っている。

以上である。

(中村議長)

ありがとう。今、図書館サービスの見直しについて、図書館協議会から答申があったが、各委員から、ご質問とかご意見はあるか。

石田委員、よろしいか。

(石田委員)

参加した委員として、諮問された答申期限までの期間が短かったことで、日程を詰めた。そのときに集まって、次の日程をどうするかということで、できるだけ6名以上参加できるということで、最後の日程表を見るとわかるが、1週間後とかという形でぱつぱつとやって、ただ、議論は白熱して、皆さん、結構いろいろな意見を言った。そして、各委員会に最初は傍聴者が1人か2人だったが、最後の12月1日は9人いて、私は傍聴者の意見をアンケートで聞きたいなという気がした。私たちが議論していることに対して、どういう意見を持たれたのかなということちょっと聞きたかったなと思った。だから、何かの機会で、またあったら、そういうことも、図書館として、1枚紙で、どのように思われましたかというアンケートをとっていただけると。最後に9人来るとは思わなかったし、結構寒かったのに、皆さん、熱心に聞いて帰られた。意見も

結構出て、市からの東分室をNPO化するということと、移動図書館車を廃止するということが、ある意味、突然、施策として出てきているので、それに対する意見、なぜもっと早く掲示されないのかということで、館長は知っていても掲示できないという職業範囲があるので、市の方針として、今年の年頭にこういう方針を打ち出したいというようなものが計画として出されるといいなと思ったので、先ほど言った長期総合計画のようなものが、もっと傍聴できて、皆さんに周知されるようなものであると、展望としてわかるかなと思った。

以上である。

(中村議長)

ありがとう。

ほかにご意見はないか。

この答申と関連してかもしれないが、市のホームページに、教育委員会の議事録がアップされている。その中に、図書館協議会委員の解職についてという議題があった。それについて、図書館長。

(上石図書館長)

はい。後ろの名簿のところで、第13期の5号委員、学識経験者の齊藤誠一委員が平成26年11月30日までとなっている。齊藤誠一委員から、一身上の都合ということで辞任願が出たので、そのことで教育委員会にお諮りした。ただ、代理処理ということで、期日が間に合わなかったため、教育委員会に少し報告がおくれているが、事務手続上は、齊藤誠一委員から辞職願が出て、そちらを受けて進めたということで、11月30日付で解職となる。それについて、補欠委員を置くかどうかということがあるが、図書館協議会委員の選考要綱では、残り任期が1年以上ある場合は置くことができるということで、こちらの方は残り任期11カ月ということになったので、補欠委員は置かないということも可決済みである。

以上である。

(中村議長)

ということは、残任期の関係で補欠委員は置かないのか。

(上石図書館長)

そうである。

(中村議長)

わかった。

齊藤委員は大学の先生か。

(上石図書館長)

はい。齊藤先生は図書館学の専門の。

(中村議長)

学芸大か。

(石田委員)

筑波大。

(西田生涯学習部長)

千葉経済。

(石田委員)

昔、立川市の図書館。

(上石図書館長)

そうである。立川市の図書館職員で、経験も豊かな先生で、とても残念だったが。

(中村議長)

はい、わかった。

この答申の件で、ほかにお尋ねとかご意見はないか。

なければ、報告事項(4)公民館業務の見直しについて(答申)ということで、公民館長。

(4) 公民館業務の見直しについて(答申)

(前島公民館長)

では、公民館でご報告させていただくが、本日、資料をお配りさせていただいている。

諮問は最終ページにつけさせてもらっている。諮問等を配付するのは今回初めてかと思うので、あわせてとなるが、ご説明したいと思う。

最終ページからご説明するが、諮問の内容としては、4月1日からの貫井北分館の事業運営、委託の評価がよかったもので、平成27年4月から、公民館東分館についての事業運営委託を同じNPO法人に出したいということで、これについて留意事項があったら教えてくださいということで諮問させてもらった。

続いて答申の内容だが、3ページのこの部分の委託である。少し内容を説明させてもらうが、留意事項として、1から5まで挙げられている。これは貫井北センターの運営についていただいた留意事項と同じ形となっている。したがって、東センターを運営する場合でも留意すべき事項は同じということで、この留意事項をいただいている。私どもとしても、東センターの委託拡大に対しては、当然、同じように留意させていただきたいと思っているところである。

続いて、問題事項、1から5まで挙げられている。1に公民館運営の中長期計画の立案、2に今後の公民館事業運営委託の考え方の表明ということがあって、公民館としては、市として早急に結論は出せないという思いもあったので、委員長に趣旨を確認させてもらった。委員長からは、公民館としての考え方を持ってほしいということであり、公民館運営審議会の審議を終了しなければ、東センターを委託拡大してはいけないという意図ではないと伺っている。計画的に行うべきものであるということ表現したということだった。また、3、4については、1年間を通したNPOの状況を確認すべきであるという内容となっている。毎回、公民館運営審議会では、事業報告という形でいただいているが、事業運営計画については、利用者アンケートや公運審も

また評価をしているところではあるが、やはり1年間を通しての事業活動やNPOの初年度の決算を見た上で、委託を判断すべきであるということだった。5については、公民館としても懇

談会を実施したが、懇談会周知期間の不足や、また、利用者の方への十分な説明を行うことができなかったと認識しているので、前回の懇談会でいただいたご意見に対するご回答を含め、また今後も懇談会を継続して実施していきたいと考えている。

4月からの東センターの事業運営委託という形で目指してきているが、東センターの事業運営開始の時期については、いただいた答申の内容について勘案の上、現在、検討させていただいているところである。決まり次第、ほかのタイミングでご報告できればと思っている。公民館としても、市民サービスの向上、市民と公民連携を早期に拡大したいということを念頭に、東センターのNPOによる運営が円滑に開始できるよう進めさせていただく。

以上で報告を終わる。

(中村議長)

倉持委員、お時間は大丈夫か。

(倉持委員)

はい。濟まない、今のところで質問したかったが、時間がないので意見だけ言わせていただいてもよろしいか。

図書館も、公運審も、かなりの短期間で諮問に対する答申が求められていて、しかし、内容としては、これまでの小金井の図書館や公民館のあり方から、もちろん、貫井北町の事例というのはあると思うが、新館という意味での貫井北町で今まで検討されてきた、しかも、長い期間検討されてきたことに比べると、非常に短期間で答えを出せという、しかし、重要なことに対してコメントを出せということで、言い方はちょっとあれかもしれないが、やや、大分、乱暴という感じで、率直なところ、審議会の位置づけをどういうふうに捉えているのかなと感じた。もちろん、図書館や公運審の委員さんはどのように感じられているかのほうが大事だとは思いますが、社会教育委員の一員としては、非常に審議を尽くすべき事項のような気がするので、2カ月弱か……。

(石田委員)

1カ月半である。10月30日に来て、12月の半ばには答申が欲しいということで。

(倉持委員)

公運審もかなり短期間である。

(石田委員)

はい。やっぱり、同じ意見は結構出て、委員の中でも、こんな短期間に答申は出せないと、結構、紛糾した。

(倉持委員)

そうだった。でも、いずれにせよ、長期的に考えなければいけないというのが出たら、その辺も含めてだと思うので、そのあたりは、今後の公運審や図書館協議会や社会教育委員の役割、位置づけともかかわるようなことでもあるし、これからの公民館、図書館、社会教育のあり方にもかかわることだとも思うので、市民と行政の協働という意味では、私自身は非常に重要な会議であるかなと思っているが、もちろん、要らないという議論もある中で、小金井として、その辺を

どういふふうを考えていくかというのは、一度、議論してみたい、意見交換をしてみたいなとも思ったということ、ほんとはもうちょっと聞きながらやりたかったが、次、昭島に行かなくてはいけなくて、大変申しわけないが、言い捨てて、帰りたいと思う。大変申しわけない。

(中村議長)

では、(4) 公民館業務の見直しについて(答申)は終わりにして、報告事項(5) その他。

(5) その他

ア 第4回定例会について

(西田生涯学習部長)

では、最後になるが、この間、第4回の定例会があったので、簡単にその報告をさせてもらいたいと思う。

平成26年第4回定例会だが、平成26年12月に開催されている。まず、一般質問で、議員さんが持ち時間の中で自由に質問をし、その答弁時間を含めて1時間という範囲内の中身だが、生涯学習部の関係では、5人の議員の方から5件の質問があった。そのうち、生涯学習課関連が4件ある。

まず1件だが、小林議員、生き生きとしたまちづくりのために、生涯学習の充実をということで、例として、岐阜県の各務原市に木曾川アカデミーという生涯学習の枠組みとかか仕組みがあるが、それを参考にして、小金井市でも各ライフステージにおいた生涯学習を推進していかないか、そういうやり方があるのではないかという話だった。

初めてお聞きになる方が多いと思うので、ちょっとかいつまんで説明するが、各務原市では、小金井市でいうところの公民館みたいなところをライフデザインセンターという独自の呼び方で呼んでおり、今、ゆるキャラってやっているが、そういったものも決めたりしている。そこを中心に、生涯学習の提供拠点を、市民会館の文化ホールであったり、産業文化センターであったり、青年館であったりというものを、今までだと公民館という位置づけだったのをもうちょっと広げて、ライフデザインセンターという考え方でまとめて、ほんとに独自のやり方で、公民館とかになれている他市の方には全くわけがわからな仕組みなので、市民の周知方法にはすごく力を入れていて、いわゆる講座受講で単位がもらえると、大学みたいなやり方である。あと、隣の市とも提携してやりたいとか、そういう工夫をして取り組んでいる。かなりの予算をつけてやっているとか、市長がかなりやる気、こういったことに関心をお持ちでやっているということもあって、小金井市で、ぴったりそのままでできるかということになると、いろいろなものがあって、そんなに簡単にいくものではないが、そういうのは参考にしたいという答弁をしている。

また、もう一つ、各種団体、大学等が行っている市民参加講座、ばらばらにチラシなんかはあるが、こういったものをまとめて発信するような仕組みを持たないかということだが、これは集めるのに非常に手間がかかったり、編集作業等にも時間がかかる。こちらの前の期の社会教育委員の会議の中で、いわゆる生涯学習支援センター機能の充実ということは言われている

ので、例えば、冊子としてまとめるということになると、予算、手間、いろいろなものがかかっていくが、今でも、ここの7階に行くと、生涯学習コーナーというのが用意してあって、いただいたチラシを置いてあるが、それをもうちょっと拡充するような形で考えていくことは可能なのかなということ、そういう提言も参考にしながら拡充に努めたい、1点目の質問に関しては、そんな答えをしている。

それから2点目だが、小金井の歴史を広く知っていただくためにということで、五十嵐議員から質問があった。中身については、市史編さんの進行状況の確認と、市民向けの冊子を作成しないかということだった。現在、市史編さん大綱に基づいて、市制60周年に当たるのが平成30年になるので、通史編というのが最後になるが、現在、ちょっとずつ市史を刊行していて、ついこの間も資料編ができていったが、平成27年度には市史資料編の現代部分、それから、28年度に近世、29年度には考古というような形で、順次、計画的に発行していくという答弁をしている。市民向けの冊子を作成しないかと、この時点で聞かれたが、実は、今日、皆様にお配りした冊子が12月26日発行ということになって、最終校正を終わって聞かれても、もう間に合わない状況で、もう発行するという話で、議員としては、こういうことを取り入れないか、こういうことも書かないかということをお願いしたかったようだが、今後、出版するときには参考にさせていただくという答弁しかできなかったということで、今回は無理という話だった。

それから、これはちょっと初耳になるかと思うが、今そちらに配っている『小金井市の歴史散歩』の中にも載っているが、梶野の分水築樋というのがある。この築樋というのは新田開発に当たって、飲み水を確保するために、享保年間、1700年代に、幕府に再三、上水の分水を願い出た上で、砂川上水から分水して、下流のほうは深大寺方面まで行くという、深大寺用水とも呼ばれるような築樋をつくったという歴史がある。こちらについて、歴史的な遺構として、草刈りやフェンスの修繕あるいはPRをしたりしないかという内容の質問が水上議員からあった。中身については道路管理課等がやっているの、草刈り等については要望するという答え、それから、案内板については、現在もどこに設置するか云々というのはあるので、検討していきたいという答弁をさせていただいている。

それから、家庭教育支援について、岸田議員から質問があった。現在、いわゆる連携があれば、今、家庭教育支援チームというものがあって、いろいろと必要なことをやっているということで、今後も生涯学習部として、家庭教育の支援という面ではどういう施策が有効か、広い視野を持って考えていきたいという説明をしている。

それから、最後に、図書館、公民館に関する質問が1件あった。これは先ほど報告もさせていただいて、まだ答申が出る前だったが、いわゆる東センターの委託についてという質問だった。庁内の動きとか、現状はどうなっているのか、今後のスケジュールはどう考えるのかとか、先ほど出たNPO、社会教育、そういったものの最後のビジョンをどう考えるんだという質問だった。それについては、現在、そういう諮問をしている状況であるということで、現状

の説明をさせていただき、この答申をもとに考えていきたいという答弁をしたものである。

次に、厚生文教委員会だが、11月、閉会中には行政報告を2件している。1件は、玉川上水に設置する人道橋の名称募集について。それから、図書館、公民館業務の見直しについて、今日の答申にかかわることについて行政報告している。

最後に、補正予算についてだが、基本的、最終的な調整ということで、人件費に係るもの以外、生涯学習部関係では、文化財センターと図書館の光熱水費がちょっと不足してしまったところがあるので、その調整の補正予算が入っていて、可決されたということである。

以上で報告を終了させてもらおう。

(中村議長)

ありがとう。

このごろ、議員さんから、生涯学習、社会教育関連の質問って結構増えているような気がするが、どう思われるか。

(西田生涯学習部長)

正直、増えている。

(中村議長)

増えているだろう。

(西田生涯学習部長)

はい。

(中村議長)

以前に比べると、このごろ、格段に増えたような感じで、関心を向けてもらっていて、いいことではないかなと思う。昔は、議会で1つ質問が出るか出ないぐらいだっただろう。

(西田生涯学習部長)

そうである。大体、国体とか、あの辺を契機に大分増えていったという感覚はある。

(中村議長)

ありがとう。ほかに報告事項あるか。

(樹委員)

第5回放課後子どもプラン運営委員会が12月日に開催されたので報告する。今回は小金井市立第一小学校区視察ということで、一小では学芸大学の学生を中心とした遊びをやっており、学生もテキパキと子どもたちを指示しながら、私たち母親からすればちょっと怖いと思う遊びも上手にさせていた。またクリスマス前ということでサンタクロースとかトナカイとかを出しながら遊んでいる姿が大変印象的であった。放課後子ども教室では、来年度の計画に向けた意見が各学校から続々と出てきており、予算が確定次第来年度の計画が実行されるということで、今年度は順調に運営されているという報告があった。以上である。

(中村議長)

怖い遊びとは。

(樹委員)

結構なスピードで体育館をぐるぐる走り回ったり、やはり衝突する事故も実際起きるということ、見てるほかの学校の推進委員長は危なくないですか、とか事故はないですかといった意見も出ており、それをやらせていくということがすごい大事で、ぶつからない知恵がついていくのが大事じゃないかというのが学芸大の学生と第一小学校の推進委員からの意見であった。学芸大の学生は親とは違う観点で教育者としての実践を学べる場所であるので、小金井市の大事な人材バンクであることを実感した。

(中村議長)

保険とかは入っているのか。

(石原生涯学習課長)

行事保険に入っている。

(中村議長)

では時間も押しているのでここで終了とする。

以上